

1人1台タブレット端末を活用した言語活動の工夫

～「使える英語」の実現を目指した授業づくり～

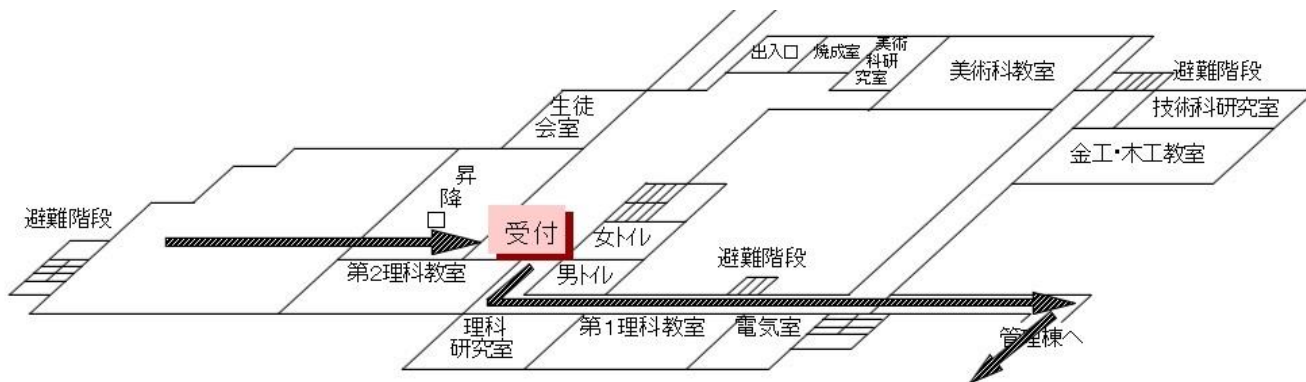
概要：今日の英語教育においては、語彙や文法の知識を、アクティブ・ラーニングを通して実際のコミュニケーションに応用できる力へと引き上げて育成することが求められている。本校では、2014年度より生徒各自が1台ずつタブレット端末を所有し、授業をはじめさまざまな活動において活用している。本提案では、英語力だけでなく思考力・判断力・表現力を育成するためにタブレット端末を活用し、「この語彙や文法を使って何が表現できるか」「どんな場面でこの表現が使えるか」に生徒の意識が向くようなテーマを設定して、実際の使用場面と結びつくような言語活動を行う。

日時 平成28年11月15日(火)
授業展開 14:00～14:50
研究協議 15:10～16:30

会場 千葉大学教育学部附属中学校 大研修室(管理棟3階)
※授業展開・研究協議ともに同一の会場で行います。

展開学級 2年C組(男子18名、女子19名、計37名)

授業者 横田 梓



外通路を渡って、管理棟1階をお進みください。
職員玄関の脇にある階段を3階まで上がっていただき、
右手突き当たり「大研修室」へお願いします。

千葉大学教育学部附属中学校

本校の全体研究主題

自ら問い続ける生徒の育成

～新しい時代を生き抜くための「実践知」を培う授業のあり方～

本校英語科研究主題

「使える英語」の実現を目指した授業づくり

～「気づき」の共有から活用へ～

焦点化したいポイント

①ICT（主にタブレット端末）の活用について

文部科学省「2020年代に向けた教育の情報化に関する懇談会」最終まとめ(平成28年7月28日)にもあるように、今後数年の間に学校教育を取り巻くICT環境は確実に変化していきます。本校では、タブレット端末導入に関する検証が今年度で3年目となり、3カ年研究のまとめを行う段階にあります。研究を進めていくにつれて多くのメリット・デメリットが見えてきました。千葉市の中学校における実態や課題を共有しながら、英語科におけるICT活用について情報交換をしたいと考えています。

②言語活動の工夫について

本日展開する授業では、(1)帯活動“Interview & Report”、(2)参会者の先生方へのインタビュー、(3)調査結果についての発表(レポート)と、主に3つの言語活動を行います。平成29年2月10日(金)に開催される本校のICT授業研究会では、本時の指導から見出された課題を改善して、同一単元を他学級で展開する予定であるため、皆様から忌憚のないご意見をいただきたいと考えております。

第2学年C組 英語科 学習指導案

授業者 横田 梓
展開場所 大研修室

I 単元名 比較級・最上級

II 単元の考察

(1) 本校全体研究主題・英語科研究主題との関連から

本単元では、比較級・最上級を目標言語材料とする。教科書 *NEWHORIZON English Course 2* (東京書籍) では Unit7 で扱われる文法事項であり、Unit5 の学習を終えたばかりの生徒たちにとって本単元はその先取りの学習となる。

本校英語科では、研究主題を『使える英語』の実現を目指した授業づくり～『気づき』の共有から活用へ～とし、英語が使えると実際にはどのようなことができるようになるのかを活動ベースで意識させることに重点を置いて授業実践を行っている。アクティブ・ラーニングへの転換期にある今、教師から正解を与えるのではなく、生徒たちに考えるための素材を提供し、そこから生徒が新たな「気づき」を見出して、他者とのやりとりの中で理解を深めていく、というサイクルが理想的である。つまり、多様な場面設定の中で生徒に試行錯誤させながら、「使える英語」を目指して問い続けるための仕掛けをいかに提供できるかが本研究のポイントとなる。そのためには、日々の授業と実社会・実生活での英語の活用を橋渡しするような、リアルなタスクの設定が鍵となってくる。スピーチ発表にしても、ペアでの対話にしても、形式的に活動させるのではなく、「このテーマで話したい」「こんなふうに表現したい」と思考・判断させることが重要なのである。こうした必然性のある話題選びや場の設定こそが、本研究の最大の課題である(研究の詳細については本校公開研究会会誌【資料1】を参照のこと)。

(2) 単元構成における視点

こうした考えのもと、パターン化された言語活動だけでなく、テーマを与えて生徒が自由に表現できる場を意図的に設定している。本単元を構成するにあたって、「比較級・最上級を使って何が表現できるか」「どんな場面で比較級・最上級の表現を使えるか」に生徒の意識が向くような、比較的自由度の高いテーマを設定したいと考えた。そこで計画したのが、自分の決めたテーマについて英語で調査(インタビュー)を行い、データを集めて結果をグラフ化し、発表(レポート)するという活動である。2学年の生徒たちは後期のスタートから、帯活動で *Interview & Report* というペア活動に取り組んでいる【資料2】。授業者がこの活動を授業に取り入れて4年目になるが、決められた時間内で簡潔に話したり書いたりする流暢さ(*fluency*)を高めるのに大いに寄与するものだと実感している。本単元では、この *Interview & Report* の帯活動を発展させて、各自が自由に設定したテーマについて、級友だけでなく参会者の先生方にもインタビューを行い、その回答から得られた「ビッグデータ」をタブレット端末の *Excel* ワークシートを活用してグラフ化し、それをスクリーンに提示しながら結果をレポートする。自分自身が決めたテーマについて、参会された先生方からリアルな回答を得ることで、単なる授業内のアクティビティにとどまらない「本物の」コミュニケーションとなることが期待される。

こうした言語活動を行うためには、当然のことながら基礎・基本の定着が重要である。本時の活動につながるよう、パターンプラクティスをしっかりと行い、比較級・最上級の用法を十分に理解させたい。しかしそれでも、対話の中で語彙や文法を間違えたり、自分の言いたいことがうまく表現できなかつたりすることもあるだろう。それも「自ら問い続ける生徒」を育成するために必要なプロセスだと考え、ヒントを与えるなどファシリテーションの視点をもって指導に当たりたい。

III 単元の目標

比較級・最上級の用法を理解し、身近なことや自分自身の考えを表現したり、相手の意見を尋ねたりすることができる。

IV 単元の評価規準

ア コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての 知識・理解
①既習の英語を使ってInterview & Reportの活動を積極的に行っている。 ②比較級・最上級を使って、自分の興味・関心のあるテーマに関するデータを積極的に集めている。	①比較級・最上級を使って、身近なことや自分自身の考えを表現している。 ②比較級・最上級を使って、自分の決めたテーマについて調査した結果を発表している。	・比較級・最上級を含む英文を聞いたり読んだりして、その内容を理解している。	・比較級・最上級の用法を理解し、どんな場面で活用できるか考えている。

V 生徒の実態

(1) これまでの指導の経過より

本校では、教科書 *NEWHORIZON English Course 2* (東京書籍) を使用している。先述したように、生徒たちは Unit5 を学習し終えたばかりであり、これまでに **be** 動詞や一般動詞の過去形、過去進行形、SVC や SVOO, SVOC といった文型、**be going to** ～、**to** 不定詞の3用法、助動詞、そして **if, when, because** といった接続詞を学習してきた。本単元で扱う比較級・最上級は Unit7 で扱われる文法事項であり、本来であれば年明け1月頃に学習する内容であるが、先取りの形で展開することになる。ただ、**Interview & Report** の帯活動や本時のインタビュー活動を行う上で、相手の回答に対して理由を尋ねる場面が必ず出てくるため、既習事項の接続詞 **because** を積極的に活用するよう促したい。

千葉大学教育学部の附属校ということで、教育実習生による指導が年間約2ヶ月間に及ぶ。今年度も、9月第3週～11月第2週までは基本的に教育実習生が本学級の指導を行った。夏休み以降で授業者が指導したのは、休み明けの約3週間と本時までの約1週間のみで、後期からスタートした **Interview & Report** の帯活動にもまだあまり慣れていないが、今後も継続して取り組んでいきたい。

タブレット端末については、各家庭が費用を負担するものとし、規定の機種を学校で一括購入して、生徒たちが入学後まもなく(現2年生は平成27年5月のGW明け)配付した。各教科・領域のみならず、生徒会活動や総合的な学習の時間、部活動などあらゆる場面で活用している。Microsoft Word での文書作成や Microsoft PowerPoint でのプレゼンテーション作成、写真や動画の撮影やインターネットでの検索(調べ学習)などは日常的に行っており、生徒たちはその操作にもかなり慣れている。本時で使用する Microsoft Excel のグラフ機能は、多くの生徒があまり使い慣れていないと思われるため、事前にその操作方法を生徒に説明しておく。

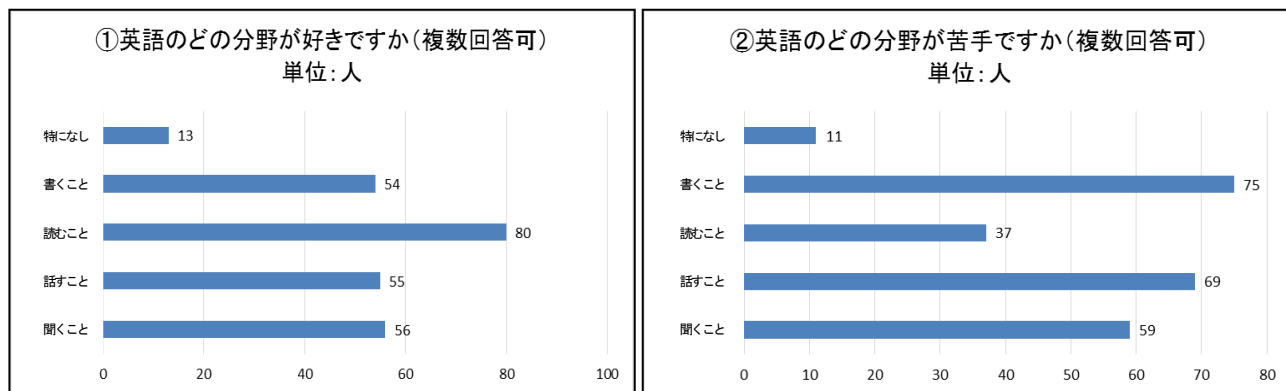
(2) アンケートによる英語学習の実態調査より

本学級の生徒は学習意欲が高く、授業中の言語活動にも積極的に取り組んでいる。学級の雰囲気も良好であり、男女分け隔てなく協力して活動することができる。

次ページの【表1】は、①英語の4技能のうちどの分野が好きか、②英語の4技能のうちどの分野が苦手か、を2学年全員(在籍149人：うち欠席6人)に調査した結果である。これを見ると、英語の文章を読むことが好きな生徒が多い一方、話すことと書くことに苦手意識を持っている生徒が約半数に上ることがわかる。こうした実態をふまえ、**Interview & Report** の帯活動を週1回ペースで継続的に行い、英語でやりとりすることに慣れさせたい。

また【表2】は、平成28年度第1回検定終了時点での英語検定取得率である。学年全体の30%以上が英検3級以上を有しており、受検経験のない生徒の中にも3級相当の実力がある者も少なくない。特に、授業展開を行う2年C組の生徒は上位層が厚いため、**Interview & Report** のペア活動などでは英語の苦手な生徒をうまくリードしている様子が見られる。このような実態を活かし、教師側から一方的に知識を与えるのではなく、生徒個人の「気づき」や生徒同士の協働学習を大切にし、互いに学び合う学習環境づくりを目指している。

【表1】英語学習に対する意識調査（4技能別）：平成28年9月末実施、回答人数 143人



【表2】実用英語検定（英検）取得率：平成28年9月末現在

	5級	4級	3級	準2級	2級	準1級	1級	不明	受検経験なし
2A (38)	1	9	7	1	0	0	0	5	15
2B (38)	3	4	9	2	1	0	1	3	15
2C (37)	2	6	6	6	1	0	0	3	13
2D (36)	2	7	8	2	2	1	0	1	13
2学年全体 (149)	8	26	30	11	4	1	1	12	56
割合 (%)	5.4%	17.4%	20.1%	7.4%	2.7%	0.7%	0.7%	8.1%	37.5%

VI 単元の指導と評価の計画（全4時間）

時間	○ねらい ・ 学習活動	単元の評価規準	評価方法
1	○比較級-er、最上級-est の用法を理解する。 ・オーラルイントロダクションで導入された英文を理解する。 ・パターンプラクティスで知識の定着を図る。 ・比較級・最上級を使って、身近なことを表現する。	ウ エ イ①	・活動の観察 ・ワークシート
2	○比較級 more、最上級 most の用法を理解する。 ・帯活動 Interview & Report で前時の復習をする。 ・オーラルイントロダクションで導入された英文を理解し、前時の学習内容との違いに気づく。 ・パターンプラクティスで知識の定着を図る。 ・比較級・最上級を使って、自分自身の考えを表現する。	ウ エ イ①	・I&R の記述 ・ワークシート
3	○比較級 better、最上級 best の用法を理解する。 ・帯活動 Interview & Report で前時の復習をする。 ・オーラルイントロダクションで導入された英文を理解し、前時までの学習内容との違いに気づく。 ・パターンプラクティスで知識の定着を図る。 ・比較級・最上級を使って調査したいことを考える。	ウ エ	・I&R の記述 ・活動の観察
4 (本時)	○比較級・最上級を使って Interview & Report の活動を行う。 ・自分の決めたテーマについて英語でインタビューをする。 ・データを集めて結果をグラフ化し、発表(レポート)を行う。	ア② イ②	・I&R の記述 ・活動の観察 ・Excel グラフ ・ワークシート

Ⅶ 本時の指導（４／４）

(1) 授業名 「ビッグデータ」を集めて調査結果を発表しよう ～Interview & Report の応用～

(2) 学習目標

- ・比較級・最上級を使って、自分の興味・関心のあるテーマに関するデータを積極的に集めることができる。
(関心・意欲・態度)
- ・比較級・最上級を使って、自分の決めたテーマについて調査した結果を発表することができる。(表現)

(3) 考察

本時は比較級・最上級の用法の総復習と活用の学習となる。単元を通して、「自分の身近なこと」や「自分の好きなもの」をテーマとした言語活動を行うが、まとめとなる本時では、これまで学習してきたことを形式的にアウトプットするのではなく、それをどのように活用するかを自ら思考・判断し、自己表現につなげることを目指す。そのための手立てとして、「ビッグデータの収集」というリサーチ活動を行い、帯活動として取り入れている Interview & Report の応用とする。その過程の中で「英語を使って何ができるようになるか」についても考えさせたい。

生徒たちにとって、自分の興味・関心のあるテーマを自由に設定し、それを参会される先生方に実際にインタビューすることは、実社会と英語のつながりを意識するチャンスである。「授業で学習したことが、将来実際に使えるかもしれない」と思わせることで、英語学習に対する意欲も向上し、自ら学ぶ姿勢を育成するものとする。

また、単元を通して聞くこと、話すこと、読むこと、書くことをバランスよく取り入れ、4技能を総合的に指導する。本時では、相手の質問を聞いてその内容を理解したり、質問に対して答えたり、調査結果を発表したりするため、主に「聞くこと」と「話すこと」の活動が中心となる。

ICT活用場面は、①事前に教師用PCからファイル配信されたExcelワークシートに、調査テーマや選択肢を入力し、インタビューの結果を記録する、②集まった回答をExcelのグラフ機能を用いて可視化し、タブレットをプロジェクタに接続してスクリーンにグラフを提示しながら発表する、の2つである(注)。英語でのやりとりを活性化させるため、タブレットへの入力是最小限にとどめ、ICTの過度な利用によってコミュニケーション活動を阻害しないよう留意したい。

(注) 普通教室では、パイオニアVC株式会社の授業支援ツール「xSync」を活用して、①②とも無線LANを経由して即時に送受信することができるが、本時の展開会場には校内LANが備わっておらず、xSyncの機能を使用することができないため、HDMIケーブルで接続する。

(4) 展開

学習過程 時配	学習内容(●)及び活動(・)	支援上の留意点(○)及び評価(◆)	使用機器・資料 及びコンテンツ
1.Greeting 2分	●英語で挨拶をする。 ・英語で簡単なやりとりを行う。	○英語を学習する雰囲気を作る。	
2.Warm-up 8分	●帯活動 Interview & Report (以下 I&R) を行う。 ・配付されたI&Rシートに“Which do you like better, school lunch or boxed lunch?”というテーマを記入する。 (1分) ・I&Rシートに自分の考えをメモする。 (1分) ・ペアで会話する。(1分×2) ・結果を英語で書く。(3分) ・I&Rシートを回収する。(1分)	○比較級・最上級を使ってやりとりできるテーマを設定し、本時の学習内容につなげる。	・I&R シート ・教師用 PC ・プロジェクタ ・HDMI ケーブル ・スクリーン ・デジタルタイマー

<p>3.Introduction 5分</p>	<p>●本時の学習課題を把握する。 ・教師による「ビッグデータ」のリサーチ結果を聞く。 ・インタビューやその結果報告で使える表現に気づく。</p>	<p>○事前に調査しておいた生徒たちの実際の回答を取り上げることで、本時の活動に興味・関心を持たせる。 ○結果をグラフの形で示し、本時の最終的な発表の仕方を示す。</p>	<p>・教師用 PC ・プロジェクタ ・HDMI ケーブル ・スクリーン</p>
<p>英語でインタビュー活動を行い、「ビッグデータ」を集めて、その調査結果をグラフ化して発表しよう。</p>			
<p>4.Preparation-1 5分</p>	<p>●インタビューの準備をする。 ・事前に教師用PCからファイル配信されたExcelワークシートに調査テーマや選択肢を入力する。 ・英語でどのようにインタビューをするか考える。</p>	<p>○評価基準を明確にして活動の見通しをもたせ、客観的な評価にもとづいて活動できるよう支援する。 ○机間指導をしながら既習事項を確認し、Introductionで教師が用いた表現にも触れる。</p>	<p>・タブレット ・Microsoft Excel (インタビュー用ワークシート) ・デジタルタイマー</p>
<p>5.Interview 8分</p>	<p>●インタビューを行う。 ・生徒同士だけでなく、参会者の先生方にも積極的に質問して、「ビッグデータ」を収集する。 ・得られた回答は、タブレットのExcelワークシートに記録する。</p>	<p>○机間指導を行い、会話に詰まっている生徒を支援する。 ◆比較級・最上級を使って、自分の興味・関心のあるテーマに関するデータを積極的に集めているか。(活動の観察、Excelワークシートへの入力)</p>	<p>・タブレット ・Microsoft Excel (インタビュー用ワークシート) ・デジタルタイマー</p>
<p>6.Preparation-2 8分</p>	<p>●結果をグラフ化する。 ・Excelのグラフ機能を使って結果を可視化する。 ・ワークシートに発表用の英文を書く。</p>		<p>・タブレット ・Microsoft Excel (グラフ機能) ・ワークシート ・デジタルタイマー</p>
<p>7.Presentation 12分</p>	<p>●結果を発表する。 ・ペアやグループで結果を発表する。 ・Excelグラフをスクリーンに写し、英語で結果を発表する。</p>	<p>○単に結果のみを報告するのではなく、その理由や自分の考えなどについても言及させる。 ◆比較級・最上級を使って、自分の決めたテーマについて調査した結果を発表しているか。(Excel グラフ、ワークシート)</p>	<p>・タブレット ・プロジェクタ ・HDMI ケーブル ・スクリーン</p>
<p>8.Consolidation 2分</p>	<p>●本時のまとめをする。 ・自己評価カードに記入する。</p>	<p>○「英語を使って何ができるようになるか」を考えさせ、「使える英語」を意識づける。</p>	<p>・up-up sheet (自己評価カード)</p>

(5) 評価

- ・比較級・最上級を使って、自分の興味・関心のあるテーマに関するデータを積極的に集めることができたか。(関心・意欲・態度)
- ・比較級・最上級を使って、自分の決めたテーマについて調査した結果を発表することができたか。(表現)

「ビッグデータ」を集めて調査結果を発表しよう

No.14

class _____ no. _____ name _____

Today's Mission 比較級・最上級を使って英語でインタビュー活動を行い、「ビッグデータ」を集めて、その調査結果をグラフ化して発表しよう。

◆ Make your original question!

インタビューするテーマを考えて、質問をメモしておこう。(テーマは自由!ただし5択まで)

(例) Which is **more important** for you, love or money? And why?

◆ Interview your friends and all the teachers here!

No.	Choices	Reasons / Memo (Anything is O.K.)
1		
2		
3		
4		
5		

◆ Write your report!

「ビッグデータ」を集めて調査結果を発表しよう

評価基準表

class _____ no. _____ name _____

Today's Mission 比較級・最上級を使って英語でインタビュー活動を行い、「ビッグデータ」を集めて、その調査結果をグラフ化して発表しよう。

◆インタビュー活動 (speaking & listening)

目標	S	A	B	C
比較級・最上級を使って、自分の興味・関心のあるテーマに関するデータを積極的に集めることができる。	比較級・最上級を使って、自分の興味・関心のあるテーマについて、理由も含めて 20人以上 のデータを集めている。	比較級・最上級を使って、自分の興味・関心のあるテーマについて、理由も含めて 15人程度 のデータを集めている。	比較級・最上級を使って、自分の興味・関心のあるテーマについて、理由も含めて 10人程度 のデータを集めている。	比較級・最上級を使っていない。日本語で質問する。

◆レポート発表 (writing & speaking)

目標	S	A	B	C
比較級・最上級を使って、自分の決めたテーマについて調査した結果を書くことができる。	比較級・最上級を使い、理由も複数示して文ごとに関連性のあるまとまった構成になっている。文の数は 5文以上 。	比較級・最上級を使い、情報はまとまっているが、理由が1つだけで文ごとの関連が薄い。文の数は 5文程度 。	比較級・最上級は使っているが、ひとつひとつの情報が断片的で、まとまった構成になっていない。文の数は 3文以下 。	比較級・最上級を使っていない。
比較級・最上級を使って、自分の決めたテーマについて調査した結果を発表することができる。 ペア⇒グループ⇒全体	Aの基準を満たし、かつ聞き手に問いかけるなど、わかりやすく工夫した発表をしている。	しっかりと声が聞こえ、身振り・手振りを交えたり、グラフを示したりして発表している。	声は聞こえるが、発表に工夫が見られない。(ただ原稿を読んでいるだけ…)	声が小さく、聞き手に届かない。(グラフを見ないと結果がわかりにくい…)

めざせ！オールS評価！

